

1 道徳科で目指す生徒の姿

様々な場面や状況において適切な行為を主体的に選択し実践しようとする生徒

2 道徳科の研究テーマ

自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、道徳性を養うための学習の在り方

3 研究テーマの具現に向けて

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説の特別の教科道徳編第 4 章指導計画の作成と内容の取扱いでは、「各教科等における学習と道徳科の指導のねらいが同じ方向をもつものである場合、学習の時期や教材を考慮したり、相互に連携を図ったりした指導を進めると、指導の効果を一層高めることが期待できる」ことが示されている。題材「自分の個性を見付けて伸ばそう」（令和 7 年 6 月・1 年）では、短所も含めた自分の個性を肯定的に捉え、個性を伸ばしていこうとする実践意欲を高める学習の中で、主題「個性を伸ばすために大切なこと」を設定し、総合的な学習の時間の学習と内容項目 A（3）とを連携させた展開を位置付けた。総合的な学習の時間の単元「これからの社会に触れる私」では、自分の強みを発見、再確認する学習を行った。T 生は「放置竹林問題を周知するための活動を決め出す際に、友の意見を広く取り入れて判断することができた。」と自分の強みについて発言した。そして、道徳科の教材「見方を変えると」では、リフレーミングをする中で、T 生は、総合的な学習の時間での学習を想起し、「友の意見を広く取り入れようとするあまり、時に周りに流されてしまうことが私の短所だ。」と発言した。同じグループの M 生は、「それは、T 生が人に優しくすることができるからではないか。」と T 生に伝えた。授業終末、T 生は「私の短所は私の特徴でもある。色々な考え方をもっている友からの意見で、心が軽くなり少しだけ自信がもてた。長所も短所も私の大切なものであって、短所を捨てたいわけではない。私は、短所も自分の一部として大切にしたい。」と自分の個性を肯定的に捉えることのよさを実感し、様々な見方で個性の在り方について考え、前向きに生きようとする実践意欲を高めていた。このような T 生の姿を、道徳科の研究テーマを具現した姿と捉えた。

そこで、題材「日本の伝統や文化と関わろう」（1 年）では、これまで培われてきた伝統や文化を担い手として次代に引き継いでいこうとする実践意欲を高める学習の中で、主題「伝統や文化を継承するとは」を設定し、技術・家庭科（家庭分野）の小題材「日本の衣服と文化～和服の秘密を解明しよう～」と内容項目 C（17）を連携させた展開を位置付ける。生徒は、家庭分野で行う和服と洋服の比較や浴衣の着装体験を通して、日本の伝統的な衣服である和服を特別な場では着用していきたいと考え、伝統や文化を大事にしたいという思いをもち始めるだろう。さらに、宮参り用の祝い着に用いられている伝統模様に込められた先人たちの願いや思いを知ることを通して、受け継がれてきた伝統や文化の価値や意味を深く理解し、伝統や文化を大事にしたいという思いをより一層強くしていくだろう。そして、道徳科の教材「レオナルドと僕」では、主人公「新」の視点に立って「レオナルド」に言われた言葉を受けた時の思いを考えることを通して、伝統や文化の担い手として、それらを次代に引き継いでいくために自分にできることをやりたいという意欲を高めていくだろう。

以上のような学習を積み重ねていくことで、道徳科の研究テーマを具現し、目指す生徒の姿に迫ることができると考えた。

4 主題名・学年

「伝統や文化を継承するとは」・1 年

5 主題の目標

伝統や文化を育んできた先人たちの努力とその思いや伝統や文化の価値や意味を理解し、これまで培われてきた伝統や文化を担い手として次代に引き継いでいこうとする実践意欲を高める。

6 自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、道徳性を養うための指導計画の手立て

主題「伝統や文化を継承するとは」を設定し、技術・家庭科（家庭分野）の小題材「日本の衣服と文化～和服の秘密を解明しよう～」と内容項目C（17）を連携させた展開を位置付ける。

7 指導計画 これまで培われてきた伝統や文化を担い手として次代に引き継いでいこうとする実践意欲を高める学習

道徳科	主題への生徒の振り返り（例）	技術家庭科（家庭分野）
【本時】 内容項目 C（17） 教材：レオナルドと僕	「これまで培われてきた伝統や文化を担い手として次代に引き継いでいこうとする」 自分たちの国をよりよくしていく当事者は私たちである。家庭分野で和服を現代に繋いでくれた人の思いを知ること、私たちの手で和服という日本の大切な文化を繋いでいきたいという思いが強くなった。和服以外にも私たちが受け継いでいくべきものがあると思うので、もっと日本の伝統や文化のよさを知り、未来へ伝えていきたい。	
	「受け継がれてきた伝統や文化の価値や意味を深く理解する」 「七歳までは神のうち」という言葉が表すように、祝い着の伝統文様には、子どもの成長や健康を願う昔の大人たちの思いが込められていた。着物には単なる美しさだけでなく、一つ一つの模様に歴史や意味が詰まっており、日本の大切な伝統や文化であることを改めて感じた。日本の大切な伝統や文化と私たちはどう関わっていけばよいのだろうか。	着物に込められた先人たちの願いや思いについて考える場面で、宮参り用の祝い着に用いられている伝統模様を探し、その意味を調べることを通して、着物には長い歴史を経たことによる文化的価値があることに気付くことができる。
内容項目 A（4） 教材：夢を諦めないー「ねぶた師」北村麻子 長い歴史の中で初の女性ねぶた師・北村麻子さんが、「ねぶた師」や「人形ねぶた」への強い思いと夢を抱き、実現していく姿を通して、困難を乗り越えて希望をもってやり抜くことの心地よさに気付く。（道徳的心情）	「伝統や文化に秘められた先人たちの思いや努力に気付く」 多くの困難に直面しても、決して諦めずに何年も何年も努力し続けた麻子さんのようなねぶた師の人たちの思いや努力があったからこそ、ねぶた祭りや人形ねぶたは、多くの人から愛され、長く受け継がれてきたと思う。和服にはどのような人たちのどのような思いが込められているのだろうか。	
	「伝統や文化を大切にしたいという思いの芽生え」 着やすさや動きやすさという点から普段は、洋服を着用したい。しかし、和服という昔からある日本の生活文化を守ることも大切だと思ったので、お祭りや成人式などの特別な場では和服を着用してみたい。どのような気持ちで日本の伝統や文化は受け継がれてきたのだろうか。	私たちが日常着として和服ではなく洋服を着用する理由を考える場面で、着方や動きやすさに着目して浴衣を着て普段の生活を送ることを通して、和服と洋服の構成や着方の違いに気付くことができる。

8 本時案

(1) 資料名「レオナルドと僕」(「中学道徳1 きみがいちばんひかるとき」光村図書)

(2) 主眼

資料「レオナルドと僕」を読み、テーマ「私たちはどのように伝統や文化と関わっていけばいいのか」について考える場面で、「危機なんて少し大げさんじゃない?」という言葉に表れている新の思いや「一本取られた」ような気がしたときの新の思いを考えることを通して、これまで培われてきた伝統や文化を受け継いでいこうとする。(実践意欲)

(3) 展開

段階	活動	予想される生徒の反応	教師の支援・指導	時間	
導入	1 学びのテーマを共有し、本時の見通しをもつ。	ア 家庭分野で学習した浴衣や祝い着といった和服が思い浮かぶ。 イ 和服は単なる衣服ではない。特別な日を華やかに彩るだけでなく、一つ一つの文様に昔の人たちの願いが込められ、世界に誇れるものだからだ。	・「日本の伝統や文化」から想像することを全体で共有し、なぜ今日に至るまで残ってきたのかを尋ねる。 ・イのような反応からテーマを提示し、資料を音読する。	10分	
	展開	2 「危機なんて少し大げさんじゃない？」という言葉に表れている新の思いについて考える。	ウ レオナルドの行動や熱意は素晴らしいと思うが、新が言うように、私も危機というのは少し大げさに感じた。 【発問】「危機なんて少し大げさんじゃない？」という言葉には、新のどのような思いが表れているのだろうか。 エ 和菓子はどこでも売っているし、危機感をもつほどではない。興味のある人が守っていけばよいのではないかな。 オ 本当は危機だと分かっているけれど、剣道でも一本取られているレオナルドの考えに心から賛同できない。	・共感した部分を尋ね、新の気持ちや考えを確認し、発問につなげる。 ・新の伝統や文化に対する関心や当事者意識の薄さを確認し、新と同じように思ったことがあるか尋ねたり、レオナルドへの対抗心を確認したりして中心発問につなげる。	10分
3 「一本取られた」ような気がしたときの新の思いについて考える。		【中心発問】「一本取られた」ような気がしたとき、新はどのような思いだったのだろうか。 カ 伝統や文化を受け継ぐだけでなく、自国の文化を発展させていこうとしているレオナルドには敵わない思い。 キ レオナルドが取り組んでいることは、本当は日本に生まれ育った自分が担うべきだと悔いる思い。 ク 外国の人が日本の伝統や文化を受け継いだとしても何も問題はない。ただ、自分たちの国をよりよくしていく役割と責任は、私たちにあると思う。 ケ 私も新のように伝統や文化に目が向かない部分があったけど、家庭分野で和服の良さや込められた思いを学んだ。和服を着用し、私なりに和服という文化を未来に伝えていきたい。		・自分の考えを学習カードに記述する場を設け、その後、考えを共有するように促す。 ・キのように考えている生徒に発言を促し、自国の伝統や文化を私たちが受け継いでいくことの意義を問い返す。 ・クのような反応から、家庭分野での和服についての学習を想起するように促し、和服という日本の文化とどう関わっていきたいかを問い、考えを伝え合う場を設ける。 ・コのような考えを共有し、本時のテーマにつなげる。	20分
終末		4 本時の学習を振り返る。	コ 自分たちの国をよりよくしていく当事者は私たちである。家庭分野で和服を現代に繋いでくれた人の思いを知ること、私たちの手で和服という日本の大切な文化を繋いでいきたいという思いが強くなった。和服以外にも私たちが受け継いでいくべきものがあると思うので、もっと日本の伝統や文化のよさを知り、未来へ伝えていきたい。	・本時のテーマについて自分の考えをまとめる場を設ける。 ・日本の伝統や文化に触れた経験を振り返りながら記述している生徒や自国の伝統や文化の継承のために自分たちができることについて記述している生徒に発言を促し、全体でその思いを共有する。	10分

28 レオナルドと僕

編集委員会
小倉マユコ 監

136

「面あり！ 勝負あり！」
中学三年生の夏、剣道部の最後の地区大会決勝。連覇を狙う僕は、ある一人の剣士に敗れた。面の向うの相手の目は、喜びに輝いていた。

あれから五年。僕は、今でも剣道を続けている。とはいっても、最近は学業やアルバイトで忙しく、週に一回ほどしか稽古に通えていなかった。その日も、アルバイトを終えて、突然前を呼ばれた。

「おーい、新！ 新だよー！」
きらきらと輝く目。それは、あのときの剣士だった。
「レオナルド？ レオナルドなのか！ 久しぶり！」

レオナルドはイタリア人で、小学一年生のときに、家族の仕事の都合で日本に来たという。僕は、隣の中学校の生徒だったレオナルドと、剣道を通じて仲よくなった。しかし、中学校を卒業すると同時に、レオナルドは



＊面あり！ 勝負あり！
ここでは、剣道の試合で、勝負がついたことを指す言葉で、負けを意味する。

イタリアに帰国した。その後、しばらくはSNSでやり取りをしていたが、いつしか、それもとどえた。

「何年ぶりだろうね。レオナルドは、いつ日本に戻ってきたの？ 今、何をしているの？」

「五年、日本に戻ってきたんだよ。今、和菓子作りの修業中なんだ！」
「レオナルドが、和菓子だって？」

僕が目を見つめてみると、彼は熱心に話し始めた。京都を旅したとき、たまたま入った菓子店に並ぶ色とりどりの和菓子を見て、夢中になったこと。各地の和菓子を食べ歩いたこと。そして、ある店の和菓子が気に入って、修業させてもらっていること……。剣道をしたり、和菓子作りの修業をしたり、レオナルドは、本当に日本の文化が好きなんだなと思いがちで、僕は話を聞いていた。ひとしきり話したレオナルドが言った。

「新は、和菓子に興味がないの？ きれいだと思わない？」
「僕は、ケーキやアイスクリームのほうが好きだな。どうしてレオナルドは、そんなに和菓子が好きなの？」

「和菓子の美しさや繊細さに興味をもったんだ。和菓子は、五感の芸術だって言われているだろう。」
「五感の芸術？」



137

「そう。『見る、触る、味わう、聞く』の五感だよ。見た目の美しさ、それから、口に入れたときのかみ心地や舌触りと、素材のよさを引き出した味わい。和菓子のもつ、ほのかな香りもすぐきだろう。そして、名前の響きだよ。そういった感覚、全てを使って、食べる人を楽しませるんだ。」
「そういえば、この前、花の形をした和菓子を食べたよ。ピンク色で花びらが五枚ある……。」

僕は、先日、母が買ってきた和菓子を思い浮かべながら、答えた。
「それはたぶん、梅の花だね。もう少ししたら、うぐいすとか、桜の花のデザインの和菓子が出てくるよ。そうやって、四季折々の和菓子が、日本人を楽しませてきたんだよ。」

レオナルドの言葉には熱が籠もっていた。
「ふん、そうなんだ。気にしたこともなかったよ。レオナルドは修業しているだけあって、詳しいね。」
僕は、何の気なしにつぶやいた。すると、

「新も……。みんな、自分が生まれた国の文化なのに、気にしたことないって言うんだ。日本の伝統文化の一つが危機にあるんだよ。もつと興味をもてほしいよ。」
レオナルドが、少し残念そうな顔をして言った。

「危機？ なんて、少し大げさじゃない？」
「大げさじゃないよ。手作りの和菓子職人さんは高齢の方が多いし、若い人も少ない。後継者不足は問題になっているんだ。新だって、日本の伝統文化を大切にしたい気持ちはあるだろう？」

僕は、責められているような気持ちになった。ふと、中学三年生の夏、一本取られたお返しをしたという思いがよぎった。

「でも、レオナルドはイタリア人だろ。イタリアの伝統のお菓子を食べるにすればいいんじゃない？」
「僕は、イタリアのお菓子には、素材を生かしたすばらしさがあると思ってるよ。だからこそ、和菓子のよさを取り入れたら、もつとすばらしいお菓子が作れるんじゃないかと思ってるんだ。僕の夢は、イタリアのお菓子に和菓子の技法や心を取り入れることだよ。」

「え？ 日本の伝統文化を守ることじゃないの？」
「それは、私たちの食文化でもっと豊かになると思ってるんだ。」
レオナルドの語った夢は、僕には遠いことのように思えて、よくわからなかった。でも、今度も、レオナルドに一本取られたような気がした。



139

＊イタリアの伝統的な和菓子
例は、ジラートマリー
トワッソナ。

138